

## 1 直近の活動

9 月 4 日(日)幹事会。新たな幹事、オブザーバも参加。議題盛りだくさんです。

9 月 11 日(木)資源工学・金属合同部会。85 名。岡部先生の講義は素晴らしかった。

9 月 17 日(土)YES-Metals!

9 月 18 日(日)金属部会「脱炭素社会」勉強会第 4 回目。14 名。

9 月 25 日(日)金属部会定例部会(9 月)51 名。久しぶりのブレイクアウトルーム。

## 2 今後の活動予定 (直近 1 ヶ月分)

10 月 1 日(土)中部本部・金属部会交流会

10 月 2 日(日)近畿本部・金属部会交流会

10 月 9 日(日)幹事会

10 月 16 日(日)「脱炭素社会」勉強会第 5 回目

10 月 23 日(日)金属部会定例部会 CPD 講演者説明会

10 月 28 日(金)近畿機械システム部会

10 月 29 日(土)日本技術会全国大会

10 月 30 日(日)近畿支部・三部会合同部会

## 3 部会四方山

最近の部会参加者は 50 から 90 名の参加者になっている。最近流行りのデータサイエンティストっぽく、グラフで解析してみた。折れ線グラフでは、明らかに夏場の落ち込みが見られる。また、同じ月に行事が二つ重なると、最初の行事(合同部会やセミナー)に偏り、月末の定例部会は落ち込みが見られる。▶では、どうするか。参加者内訳をみると、セミナーがある月には、他部会の参加者はセミナーに集まり、定例部会にはほとんど他部会が参加しない傾向が見られる。▶月二回ではベース参加者は金属部会の 50 名程度の方が参加し、他部会の人はこちらかひとつに絞って参加しているように見える。▶ヒストグラムをとると、マヤの遺跡か前方後円墳のような形の、のっぺりとした台地を形成している。とてもピラミッドや富士山のような形には見えない。▶みなさんに大事件を報告する。実は、定例部会とセミナーの参加人数の年間累積が、12 月の定例部会で 1000 人を超える。直前のセミナーで大人数がこなければの話だが。合同部会や交流会をふくめると、すでに今月で 1000 人超えており、年間で 1300 程度になる。これ以外の会合に入れると年間 1500 人の参加があったことになる。参加者の人数なんか別に気にしていないよという人もいるかもしれない。でも、あんなすばらしい講演をスルーしてしまうには本当に惜しい。ひとりでも多くの人に聴いてもらいたい。▶金属部会の ZOOM の稼働率が上がるということは、それだけそのプラットフォームに人が集まったことになる。まず初年度は真水で 1000 人超えて、2023 年はその倍増を狙いたい。でも、それには部会員のひとりひとりの参加したいという思いが沸き起こらなければならない。▶なぜ人数にこだわるか。それは、成果として一番見えやすいからだ。この成果はひとりひとりの有権者、もとい参加者の想いの積み上げだ。自分もその数字を押し上げているひとりだと、みなさんに実感してもらえるような企画を今後もしていきたい。▶さてよ、なんでこんな文章を打っているんだ?そうか、さっき本部からアンケートが来て、「オンラインの会合で苦勞している点を教えろ、以下から選べ」という項目があった。和鐵は全部にレ点を入れた。そしてコメントに「苦勞ではなく、手順として全て必要。苦勞とを感じるのは時代錯誤。感覚ずれてませんか?」(最後の 1 文は書いていないが)こんな文章を返した。このコロナ時代、オンライン会議が当たり前の時代に、オンライン会議を、「苦勞」と捉えるアナログ感には違和感を覚えたからだ。という感じで今月はここまでで文を終わります。

#### 4 和鐵管見 13 青い和鐵

▶技術士活動とは、何をする活動なんだろう。これまで、物事をあまり深く考えてこなかった。その時の気分のおもむくまま、やりたいことをやり続けて今日まで来てしまった。技術士活動もそのひとつだ。仕事をしたい、旅行をしたい、本を書きたい、そして技術士活動もしたい。その本能に従って生きてきた。

▶いつも時間は目一杯だ。だってやりたいことだらけだから。でも、そのひとつひとつにどんな意味があるのかは、正直言ってよくわからない。8月に出した新刊書も出版したいから執筆しただけ。誰のためにとか何のためにとかの深い自省などなしにだ。これでは赤ん坊の行動と変わらない。▶正直いって、全然技術に自信がないので、技術について語る。脱炭素のことなんて日頃真面目に考えてもいないので脱炭素の素晴らしさを人に話す。勉強会まで作ってしまった。なんだか自分が嘘つきで、本当は何にもできない怠け者の自分がここにいるのを認めたくない反動かもしれない。▶論理的でない人間が論理を語り、金属に思い入れのない人間が楽しそうに金属を語る。不安全行動ばかりしている人間が安全を語るのも同じかもしれない。▶でも、論理的でないとか金属に思い入れがないとか、不安全行動を意識するとかするのは、根底で実はそれに憧れているからかもしれない。もっとスマートでクレバーな人間であれば、一を聞いて十を知るかもしれない。でもそうでない人間は大勢いる。和鐵もそのひとりだ。論理や金属や不安全行動が気になって仕方がない。でも、いくら気にかけても全然手が届かない。こういう苛立ちとか不安感がいつも付きまとう。▶ではどうするか。論理の講義をし、いくら気にかけても知り尽くせない金属の話を書き、不安全行動を探し出していく。きっとクレバーな人なら気にも留めず一刀両断するようなことに執着してしまう。▶冒頭の問いにもどろろ。技術士会活動って何をする活動なんだろう。これにスパッと答える能力は自分にない。仕方ないので、見たこともない「技術士活動」を想像して、追いかける毎日だ。部会活動、 세미나、地方交流会、合同部会に新合格者歓迎、勉強会。和鐵の不安神経症のために振り回されている周囲の幹事や部会に人には気の毒だが、これが技術士を深く考えずに部会長を引き受けてしまった報いなのかもしれない。杵を作って、これが技術士活動だよと誰がか止めてくれるまで和鐵の技術士活動探しの旅は続く。▶今回は、ちょっとブルーな感じで文章を作ってみました。最近なんでもかんでも緑や青がもてはやされているので、ひとり反逆を装い、ブルーって実はこんな感じなんだぞと書いてみました。気分が悪くなった人にはお詫び申し上げます。